

# “訓練でマヒを克服”

玉井熊  
大教授

## 水俣病患者を診察

熊大医学部整形外科の玉井教授は手足やことばの不自由な水俣病患者に機能訓練（適度な運動）や温泉療法を行ない、その日常生活の不便を改善するため廿一、二の両日水俣保健所と同市立病院で水俣病の自宅療養患者、入院患者計四十余人を診察した。

同教授の話によると「患者のうちには集団生活（入院）の訓練により、以前みたときよりかなり快方にむかっている人もいる」といっており「水俣病だけでなくマヒのある患者、つまり高血圧患者、水俣病によく似た脳性小児マヒも訓練によってはある程度よくなる。水俣病患者の脳神経のマヒはなおっていないが、入院後の規則的な軽い運動によって歩行などもよくなってきた。重症患者は別として軽症は寝てばかりいるよりか歩行練習などをした方が効果

的だ。市が予算を計上している湯之見の温泉療養所などは患者の集団生活に大いにプラスするので施設の充実したものを一日も早くつくってもらいたい。お湯からあがったあとのさわやかな気持ちで歩行訓練などをすれば一石二鳥の効果がある」といっている。

同教授は診察のくわしいデータを熊大へ持ちかえり、それぞれの患者の状態をばあぐ、こんごの治療法などについて研究する。